

【特集】

中国・深圳テクノ・センター企業インターンシップ体験記

孫安石（中国語学科・教員）

2010年3月7日から3月12日まで外国語学部が主催する2010年・海外企業見学（第9回）が中国の広州と深圳で実施された。一週間という短い期間であったが、中国の改革開放をリードする華南経済圏の中心地である広州と深圳では、五羊本田（HONDA）オートバイ工場、广汽豊田（TOYOTA）、深圳テクノ・センターをそれぞれ訪問することができた。また、日系企業以外でも中国の大手プラスチック・メーカーの「金発科技」はもちろん、中小企業の広州迅裕服装有限公司（縫製工場）にも訪問することができた。

中でもとくに衝撃的であったのは、深圳市の宝安区に位置する観瀾テクノ・センターの訪問であった。観瀾テクノ・センターについては、すでに関満博編『深センテクノ・センター中小企業と若者に「希望」と「勇氣」を』（新評論社、

2009年）やNHKの報道番組などで紹介されているので詳しい紹介は省略するが、私はこの訪問で初めてテクノ・センターが学生を対象にした企業インターンシップを行っていることを知った。テクノ・センターにはちょうど関西大学の学生4名が滞在しており、昼食を挟み神奈川大学の学生と交流会をもつことができた。彼らや彼女らは意外にも中国語を勉強した経験もなければ、中国について専門的な勉強をする学部でもなかった。しかし、彼らは日系企業で働く中国の労働者と共に寝食を共にし、工場の生産ラインで組み立て作業に加わった経験と意義を熱く語っていた。テクノ・センターのインターンシップの全日程は会社側が用意するものではなく、参加者自身が計画しなければならぬということも後になってわかった。テクノ・センターの意図するところは自分が計画した日程を元に若者が大いに頑張ること

を期待したことの他にない。

私は横浜に帰国してから中国語学科の2年生と3年生の授業中にテクノ・センターについて話題にしたが、その時に4名の学生が自分からインターンシップに参加したい旨、申し出た。もちろん、私は喜んで推薦文を書き、彼ら彼女らを深圳に送り出した。その彼らや彼女らが、出発の準備から深圳での生活を経て、いま帰国後の報告を【特集】としてまとめることになった。彼らや彼女らがこの夏の経験を通して一回り大きく成長したことは言うまでもなからう。この企業インターンシップは小さい一歩であるが、これから深圳のインターンシップを希望する後輩には大いに役に立つものになることは言うまでもない。ここに4名のインターンシップ体験記を掲載し、後輩の奮闘を願いたい。

（文責：孫安石）